

令和3年3月30日
社会福祉法人 とらいふ
ぐっどういる境南
施設長 河野 裕子

令和2年度 第2回ぐっどういる境南
地域密着型認知症通所介護運営推進会議

活動報告及び利用者状況

活動報告

10月	ミュージックセラピー	避難訓練	亜細亜大生体験学 習8月～、杏林大生 実習9月～ 今年度は新型コロナ 感染症拡大防止 に伴い受入れ中止
11月	秋の運動会	カラオケ	
12月	クリスマス会	クリスマスリース作成	
1月	新年会	正月飾り作成	
2月	節分	音楽・ハンドベル	
3月	ひなまつり	リズム	

利用者状況（定員数12名）

	R2・2月		R2・8月		R3・2月	
登録者数	市内	13	市内	20	市内	16
	市外	4	市外	5	市外	4
男女別	男性	1	男性	3	男性	3
	女性	26	女性	22	女性	17
曜日別	月曜日	11	月曜日	11	月曜日	9
	火曜日	10	火曜日	9	火曜日	7
	水曜日	10	水曜日	9	水曜日	8
	木曜日	11	木曜日	11	木曜日	8
	金曜日	11	金曜日	9	金曜日	9
	土曜日	11	土曜日	9	土曜日	7

介護度別利用者数（人）

介護度別 利用者数	(R2・2月)		(R2・8月)		(R3・2月)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
介護度 1	3	23	1	12	1	8
介護度 2	2	16	4	29	3	9
介護度 3	5	30	4	30	5	21
介護度 4	8	90	10	101	5	43
介護度 5	9	63	6	46	6	61
計	25	222	25	218	20	142

稼働率 49.3%（-25.8%） 平均介護度 3.6

利用者月別増減（人）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月	計
中止	2	1	1	2	0	0	0		6
開始	0	0	0	0	1	0	3		4
登録数	23	22	21	19	20	20	23		

ひまわり報告

令和2年4月1日から令和8年3月31日までの指定地域密着型サービス事業者としての指定を受けての令和2年度のサービス実施となります。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、利用者も密にならないように席を配慮し、受け入れを行っております。スペースを確保してソーシャルディスタンスを図り、プログラムもコロナ感染症を考慮しながら、内容を検討しての実施となりました。また、外部からのボランティアさんや実習生の受け入れについては、中止の対応とさせていただきます。

高齢者は身体的に症状が出にくく、判断がしづらい状況があるので、通所時の高めの熱もどこからきているものなのか、コロナであるのか、ないのかの見極めも日々苦慮しての対応となりました。判断がしづらいものに関しては、ご家族にご理解いただき、受け入れ中止とさせていただきます、お帰りいただいたり、受診を促したりしたケースが5～6件見受けられました。

この1年で登録者数及び延べ人数の変化は大幅に減少しており、コロナ禍における影響がでているものと思われます。緊急事態宣言が発令されると登録を行っている利用者さんの中には、サービスの休止を行う方や曜日の間引きをされる方も見受けられ、稼働率の減少に繋がっていると考えられます。

新規利用も見受けられるが、前年の同時期と比較をすると、減少傾向にあり、デイサービスの効果を理解しつつも、感染の恐さを考えると通所に至らないのではないかと推測されます。

認知症状の進行についても、重度認知症（認知症自立度がⅢ以上）の割合が一年前の2月では47.7%あったところが、本年は37.5%と-10.2%と大幅なマイナスの状況であり、コロナ禍の影響がでているものと考えられます。

また、平均介護度についても3.4から3.6へ上がり、身体的自立が落ちている方々が見受けられ、ベッド休養される方が増え、部屋内のベッド数の2台の使用率も増えていきます。排泄も立位が難しく、ベッド上での交換を行う方も昨年に引き続き見受けられています。

また、一般通所で登録されている方で認知症が進行し、一般通所での居場所がなく、困難となり、認知症対応型へ移行されるケースが出てきています。ここ数年は移行が難しく課題となっていました。今年度の下半期においては4件移行することができ、変化が見られています。

認知症対応型通所介護の特徴であります少人数や個別対応は、認知症対応型の利点でもありますので、少人数のプログラムを検討し、ご本人の能力や適性を活かしたもの・残存能力を活かせるプログラムの実施に努めています。そのことを通して、ご家族のデイサービスの効果の実感に繋がれていると考えています。困難例も昨年に引き続き増えておりますが、声をあげ、他の利用者の方々と交われない方等に対しては、個別対応を行い、過ごしやすい環境づくりの検討を行っています。

専門の職員につきましては、一昨年1名退職して以来その後、引き継げる職員を配置することができていなかったが、今年度9月より専任の職員を配置することができ、利用者の通所日の変化を迅速に把握し、対応を行っていくことに繋がれていると考えています。